外科専攻医募集要項

募集人数	若干名
応募資格	初期研修修了者または修了予定者 ※卒後年数を問わない
選考方法	書類審査、面接
勤務時間	週36時間 ・毎月1日を起算日とする1ヵ月単位の変形労働時間制 ・1ヵ月を平均して1週当たり36時間とする
当 直	月1～2回程度
休 暇	完全週休二日制、年次休暇25日
社会保険	健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険
その他	通勤手当あり、住宅手当あり、 駐車場あり

病院概要

名 称	地方独立行政法人岡山市立総合医療センター 岡山市立市民病院
院 長	今城 健二
職 員 数	970名(2025年1月現在)
総病床数	400床
診 療 科	外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、糖尿病内科、脳神経内科、膠原病・リウマチ内科、内分泌内科、腎臓内科、感染症内科、心療内科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科、救急科
関連施設	岡山市立せのお病院

院内施設・アメニティ等

- 院内図書館(24時間利用可)、医中誌web・メディカルオンライン・Up To Date利用可
- インターネット環境(有線LAN／図書室・医局、無線LAN／全館wi-fi有)
- 職員食堂、カフェ「タリーズコーヒー」、コンビニエンスストア「セブンイレブン」
- 院内保育園「キュキュ保育園」 ※病児保育／有
- 休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室
- 院内サークル活動(華道部、ゴルフ部、フィッシングクラブ、バスケットボール部、ランニングクラブ、バレー部、サイクリストクラブ 等)

図書室

職員食堂

カフェ

コンビニエンスストア

院内保育園

岡山市立市民病院 外科専門研修 お問い合わせ先

岡山市立市民病院

〒700-8557 岡山市北区北長瀬表町三丁目20番1号
TEL：086-737-3000 ／ FAX：086-737-3019

◆卒後臨床教育研修センター(担当：人事課)
MAIL kenshu_center@okayama-gmc.or.jp

◆外科専門研修担当 池田(外科 部長)
MAIL hirokuni_ikeda@okayama-gmc.or.jp

岡山市立市民病院 ホームページ

岡山市立市民病院 専攻医募集ページ

岡山市立市民病院

外科専攻医(連携施設型)募集案内

幅広い診療領域（臓器）研修と
救急初期診断～手術～周術期（ICU）管理の一貫した指導により
総合外科医（General Surgeon）を育成します！

多様な領域の症例を経験できます

総合外科医（General Surgeon）としての研修を幅広く行うことが可能です。
外科の診療領域は心臓血管以外の外科全般に亘り日常診療を行っています。

手術症例数：年間約750例（胃癌手術30例程度、大腸癌手術100例程度、胆嚢摘出術150例程度、腹部ヘルニア80例程度、乳腺手術30例程度、頸部・甲状腺手術30例程度）

24時間365日断らない救急 × 外科

救急科では『断らない救急医療』をモットーに24時間365日すべての救急患者を受け入れて初期診療を行う『岡山ER』の取り組みを実践しています。充実した救急体制を背景として、多くの緊急手術（年間200例程度）にも対応しており、定期手術のみならず緊急手術においても80%以上の症例は鏡視下手術で対応しています。
救急科・外科・麻酔科（ICU）の連携も確固としており、「急性腹症の診断～手術治療～ICU治療を含めた周術期管理」までを一連のものとしての研修することができます。

研修プログラムの目標

Theme 1
手術を含めた外科領域の技能の習得
研修にあたり重要なのは基本技能の徹底的な習熟です。腹腔鏡手術はGOALS、開腹手術はOSATSをもとに基本領域手術（鼠径ヘルニア、虫垂炎、胆嚢手術）について独自の「手術手引書」「評価シート」を運用しています。また、実際に行った手術動画を観ながら、具体的な技術指導も実施しています。

Theme 2
医師・社会人としての倫理観の育成
医師としての倫理観の育成も重要です。医師としての心構えやリーダーシップのあり方、外科医としての覚悟と責任、周囲の人たちへの礼儀や感謝・尊敬の念について理解し、習得できるよう指導します。

Theme 3
自ら学び、研究するアカデミック・マインドの醸成
院内で開催される医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習、CPC（年2回）の他、地方会や全国学会等での発表もできます。また、岡山大学との連携で、当院で働きながら博士号の取得ができる「連携大学院」の制度も利用できます。

岡山大学広域外科専門研修プログラム

岡山大学病院と連携した「岡山大学広域外科専門研修プログラム」に登録している専攻医を対象に、外科研修を行います。岡山市立市民病院は、「岡山大学広域外科専門研修プログラム」の施設群のうち、「連携施設A※」に区分されています。詳しくは岡山大学広域外科専門研修プログラムホームページをご覧いただくか、専門研修プログラム連携施設担当者までお問い合わせください。

※連携施設A：多くのサブスペシャルティ領域を有し、専攻医1人当たりの症例数が2年間で400例以上を経験できるような研修の中核を担う施設です。（岡山大学広域外科専門研修プログラムホームページより）

▲岡山大学広域外科専門研修プログラム

救急科と外科の連携した専門医研修プログラム「外科救急連携コース」

外科救急連携コース

	専門研修（1）3年間	専門研修（2）3年間	
初期研修	外科専門研修 （あるいは 救急専門研修）	救急専門研修 （あるいは 外科専門研修）	サブスペ研修 大学院、留学など

ごあいさつ

佃 和憲
Kazunori Tsukuda
外科　主任部長
専門研修プログラム
連携施設担当者

外科は手術により疾患に立ち向かう部門ですが、外科医にはさまざまな資質が求められます。それらは当院の院是である「心・技・体」にあらわされていると考えています。患者に寄り添い、また最適な治療を施すことを追い求めつづける「心」。手術のみならず薬物・その他の実際の治療を行う「技」。場合によっては他者の技を借りることもあります。自らの健康をたもち最高のパフォーマンスを発揮する「体」。ほかの医療者と協働する体制を構築することも体にあらわされています。自らの能力すべてを注力し、治療にあたるのが外科学と考えています。

当院は岡山大学広域外科専門研修プログラムの連携施設Aとして外科専攻医の育成にあたっており、多くの場合は後期研修1，2年目に所属します。ただし地域枠の場合は事情に応じて都度対応しています。

外科学は手術だけではなく守備範囲の広い、ただし長い期間の修練が必要な部門です。理想とする外科医を目指すべく自ら挑戦し、当院でそのスタートをきる専攻医を待っています。

桐山 英樹
Hideki Kiriyama
救急科・脳神経外科
統括診療部長
救急センター長

当院の救急センターは「断らない救急医療」を目指しており、年間に約2万人の救急患者、約4,500台の救急車へ対応しております。これを実現するには救急科と各専門科が垣根のない連携を取る必要があり、当院の外科はその筆頭となりお互いに協力体制を敷いております。救急車で搬送される患者はもちろんとして、近隣の医療機関から手術目的で紹介される患者も非常に多く、救急科での初期対応から外科での手術までを滞りなく連携しております。また、救急センターでのヘルニア徒手整復やトロッカー留置など、外科の先生から救急科研修医が直接指導を受けるなど、教育に関しても非常によいコラボレーションができております。

このように、入り口である救急科と専門的手術を行う外科が協力することで、よりよい医療の提供を目指している病院です。そして、この医療体制を未来に繋げるためには、若い先生を育成することが重要です。外科専門医を目指している専攻医の先生方に対してよりよい研修ができるように協力を惜しみません。

藤井 洋泉
Hiromi Fujii
麻酔科　主任部長

集中治療室（ICU）を担当しています麻酔科・藤井です。当院は「断らない救急」を掲げており、ICUに多数の救急患者が入室します。しかし、術後患者の周術期管理もICUの大きな使命であり、外科系各科の協力により術後患者のICU入室が増加しています。加えて敗血症性ショック患者の術後入室も多数あり、敗血症診療も経験できます。希望があれば、ICUにて人工呼吸管理、急性血液浄化療法から、IABP、PCPSまで学ぶことができます。

麻酔科は外科の先生方との良好な関係なしに仕事は成り立ちません。時間が空いた時で構いません、いつでもICUにおいで下さい。一緒に集中治療をやりましょう。そして、重症患者を救命しましょう。お待ちしています。

指導体制について

日本外科学会指導医 ・・・・・・・・・5名
日本消化器外科学会指導医 ・・・・・5名
日本内視鏡外科学会技術認定医・・・3名

施設認定について

日本外科学会 外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会 認定専門医修練施設
日本癌治療学会 がん治療認定医機構認定研修施設
呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医修練施設
日本腹部救急医学会 腹部救急認定医・教育医制度認定施設
日本内分泌外科学会専門医制度関連施設

サポート体制

- 岡山大学病院を基幹病院とした「岡山大学広域外科専門研修プログラム」の連携施設として院内に「専門研修プログラム委員会」を設置し、基幹病院と連携して研修管理を行います。
- 診療科を越えて「卒後臨床教育研修センター」で全面的に専攻医の研修のサポートを行っています。専攻医からの意見も取り入れながら、研修プログラムの向上や研修環境の整備を行っています。
- メンタルヘルス・ハラスメントに関しては、労働安全衛生室が相談窓口となり、適切なフォローを行います。